

# コロナ「最大限の警戒必要」

専門家組織 通常医療と両立「困難も」

厚生労働省に新型コロナウイルスの対策を助言する専門家組織の会合が3日開かれ、国内の感染状況について、「入院、重症患者の増加が続き、医療体制へ重大な影響が生じるおそれがある」として最大限の警戒が

必要だと評価した。死者の増加を指摘したほか、会合では比較的若い世代が感染者を広げているとの分析結果も報告された。

コロナ対策の分科会が11月20日、25日に相次いで、「3週間の集中した対策」を政府に提言したが、病床の逼迫は各地で進んでいく。病床の使用率は12月1日時点ですべての都道府県で北海道、大阪府、兵庫県で5割を超える。重症患者の病床使用率は大阪府が60・2%と高い。愛知県42・9%、兵庫県30・9%

%、神奈川県30・0%、埼玉県24・2%などとなつている。

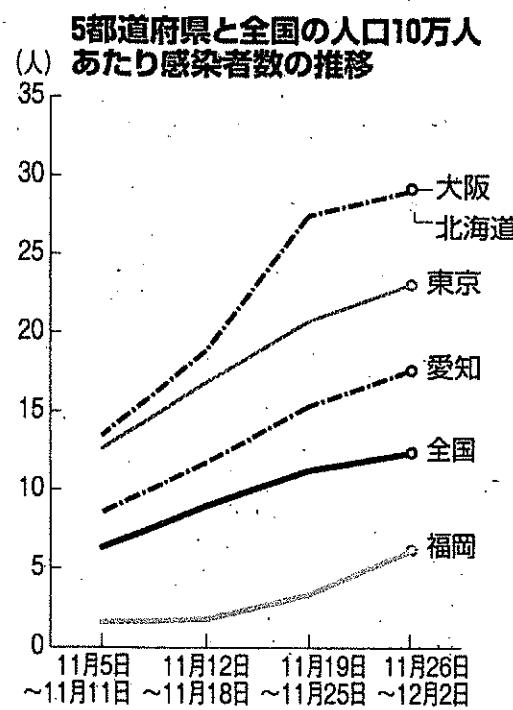
専門家組織は、北海道など一部地域で入院調整が困難になっている例があり、

「通常の医療との両立が困難になり始めている」と指

出。感染が拡大する地域では「医師が入院の必要がないとした無症状、軽症者は高齢者でも宿泊療養とする必要がある」とした。

現時点で感染の拡大がみられない地域でも、急速な拡大に備えて医療提供体制の確保を直ちに進める必要があると指摘した。

会合では、メンバーの押谷仁・東北大教授から、地域をまたいで移動する若い世代が感染を広げているとの



コロナ対策の分科会が11月20日、25日に相次いで、「3週間の集中した対策」を政府に提言したが、病床の逼迫は各地で進んでいく。病床の使用率は12月1日

時点ですべての都道府県で北海道、大阪府、兵庫県で5割を超える。重症患者の病床使用率は大阪府が60・2%と高い。愛知県42・9%、兵庫県30・9%

分析結果も報告された。

1～8月に移動歴が公表

されている感染者2万5276人のうち、国内で移動歴がある人がほかの人で感染させた頻度は25・2%

で、「移動なし・不明」の人に比べて3・4倍高かつたという。県を越えた移動難になり始めている」と指

出。感染が拡大する地域では「医師が入院の必要がないとした無症状、軽症者は高齢者でも宿泊療養とする必要がある」とした。

現時点で感染の拡大がみられない地域でも、急速な拡大に備えて医療提供体制の確保を直ちに進める必要があると指摘した。

会合では、メンバーの押谷仁・東北大教授から、地域をまたいで移動する若い世代が感染を広げているとの

確認された。

座長を務める脇田隆字・国立感染症研究所所長は「こうした世代は無症状、軽症が多く、意図せず感染拡大につながっている可能性がある。不要不急の移動の自粛や、飲食の場面での基本的な感染対策、マスク徹底などが必要だ」と話した。